

地域における乳幼児ふれあい体験

1. 実施場所 第三・第十中学校（平成29年度）
2. 対 象 中学2年生
3. 実施内容 地域の子育て支援施設が事務局となり、中学校や地域の子育て支援者等と連携し実施。

（1）主な内容

- ①事前学習 いのちの授業を助産院院長から実施。
命を授かる過程や自分やパートナーの心と身体の大切さについて1時間半程度の授業。
- ②体験学習 当日の注意点やタイムスケジュール、内容についてオリエンテーション
いのちの授業の振り返り。
4～5名程度の生徒グループが、乳幼児親子のいるマットを時間に沿って移動し体験。
参加者へ感想インタビュー・生徒からお礼の言葉含め、1時間半程度の時間。

（2）平成29年度

学校名	第三中学校	第十中学校
日程	11/8・11/11	6/15・6/20
対象	中学2年生（対象53名）	中学2年生（対象57名）
乳幼児親子組数	2か月～11か月 11組	5か月～1歳 18組
サポーター	17名	19名

4. 体験者の感想

（1）生徒

命を作り、守り育てることはとても責任の重いことだと思った。
子どもができるまで色んな家庭があり、とても大変なことが分かった。何より“決意”が大事。
大変な思いをして産んでくれたお母さんに改めて感謝。人の命や自分の命を大切にしたい。
この歳まで健康で育ってきたことも両親や周りのおかげだと思った。
怖かったが少し触った。生命はすごいと思った。命の重さを感じた。

（2）乳幼児親子

色々話すことで、母としての実感と両親への感謝を思い出せた。
息子が思春期になった頃のイメージができ、勉強になった。
一生懸命遊んでくれる姿がうれしかった。写真を見て感動してくれて自分もほっこりした。
両親から愛情たっぷりで育ててもらっていることを感じてくれたらうれしい。
娘がなかなか触れ合うことのない歳の子たちに触れ合えて楽しそうだった。自分も楽しかった。